

束になって異論たたく日本

人の愚かさ歴史に学び = 藻谷浩介・日本総合研究所主席研究員

毎日新聞 2025/11/30 東京朝刊有料記事 1689 文字



筆者は言論の自由、思想信条の自由を、何より大事だと考える者だ。

歴史の教訓は明快で、自由な議論を圧殺する体制は、必ず続かなくなる。江戸幕府のように、中国共産党や朝鮮労働党も驚く 270 年近くも、政治体制への異論封じを続けた例もあるが、その長き停滞の後始末が、いかに大変だったか。

中国では共産党の開発独裁体制が、目覚ましい産業発展やインフラ整備を実現してきた。しかし同じ体制が官憲の腐敗と粛清のループを生んでいる。



そんな筆者は、昨今の香港の状況を、地球に住む一個人として深く悲しむ。台湾に花開いている自由も、他国のことながら、無事に維持されてほしいと願う。

振り返って**日本**には、幸いにも言論弾圧をする政府はない。しかし**多数が一斉に極論を主張し、束になって異論をたたくという現象は、たびたび起きる。**

アベノミクスの当時は、「インフレ（＝物価上昇）誘導が日本経済を救う」との極論が、異論を許さぬ勢いで広まった。同じ人たちが今「物価高対策」を叫び、これまた聞こえる異論は小さい。故安倍晋三元首相の経済ブレーンたちは当時、「物価上昇が行き過ぎれば、金融引き締め（利上げ）で即時に鎮静化できる」と主張したが、**今は利上げを言わない。**

すれば株価や、過剰に発行してきた国債の市場流通価格が下がり、金融市場が大混乱に陥るからだ。**今税金バラマキを叫ぶ人は、10年後には何を言っているだろうか。**

同じく**第2次安倍政権当時**には、**口を開けば韓国の悪口**を言う人などが無数にいた。**同じ彼らが今は南へと関心を移し**「台湾有事の際には、集団的自衛権の行使も辞すべきではない」と叫ぶ。「もう少し冷静に」とでも言おうものなら、「それでも日本人か」と、時代が**80年戻ったかのような叱責**をされる。

自由にものの言える台湾の存続を願う者として、警告したい。自称愛国者のこのような言動は、中国共産党政府を利するだけだ。**中国は**、極端なペースの若者減少と高齢者増加に同時に見舞われており、共産党政府は国民の不満を「外の脅威」へとそらす必要に、従来以上に迫られている。だからこそ**日本国内で台湾を巡り勇ましいムードが盛り上がることは、カモがネギを背負って来たようなものだ。**

台湾の自由を守りたいなら、余計なことなど一切言わずに黙って備えつつ、軍事衝突を避ける方向にあらゆる努力をすべきだ。

「やあやあ我こそは」と無駄に氣勢を上げるような必要は、みじんもない。

更に加えれば、**中華文明**は「夷（い）をもって夷を制す」（後漢書）を安全保障策の根幹に据えてきた。周辺国（日本、韓国、東南アジア各国など）の仲たがいは狙うところで、**第2次安倍政権当時の日韓の行き違いなどはまさに彼らの好餌**だった。

今後の日本で、戦前の侵略行為を正当化するような勢力がさらに台頭し、首相の靖国参拝などが行われれば、被害側だった各国と日本の間に

は亀裂が入り、その最大の受益者も中国共産党政府となる。だから**故安倍氏も、その点は思いとどまったのだ**。

私事で恐縮だが、先週末に筆者の父・藻谷研介が、93歳で他界した。13歳だった夏に富山空襲で両親ほかをうしない、自分で木を集めて遺体を火葬した悲惨な体験をしている。その父の葬儀で同席した、父と同世代の親戚筋の方は「私の父はルソン島（フィリピン）で戦死しまして、会ったことがありません」と語っておられた。

戦争を実体験した世代は、**思想にかかわらず、「あおりあおられて戦争する愚は避けなければならない」という認識を共有**していた。「**戦いを辞さず**」という姿勢に心高ぶり、同調しない者たちを非国民呼ばわりする風潮が再び高まっていることに、過去の失敗の再現を危惧しているだろうが、その声はもはや小さい。

去り行く**戦災孤児たちの子どもの世代**として、蠅螂（とうろう）の斧（おの）とは知りつつも警告を発したい。**軍事や外交に素人がしゃしゃり出て、精神論で声高に粹がるほど、事態は悪化**する。

愛国のつもりが、戦争で利を得る国内外の誰かの餌になってしまう。人の愚かさを歴史に学ばずして、未来はないと。

= 毎週日曜日に掲載